

皆さん、こんにちは。エマ・セインズバリーと申します。私は3年間、鶴田町の子どもたちに英語を教えたことと、町民の方々と交流できたことをとても光栄に思います。

鶴田町には3年間住んでいたもので、鶴田町は私の第2の故郷となりました。つるたまつりで踊ったり、鶴田八幡宮にお詣りしたり、富士見湖パークで花火を見たり、町中を散歩したり、管内の小学校や中学校で英語を教えたことなど多くの思い出ができました。

鶴田町ではさまざまなことを学ぶことができました。日本語もたくさん喋れるようになり、津軽弁もわんづかですが覚えしました。そして、ずっと憧れだった「鶴田町太鼓の会」に入って、一緒に演奏できたことがとてもうれしかったです。私は鶴田町に来る前はあまり子どもたちと触れ合う機会がなかったので、最初は少し戸惑いましたが、元気で素直な子どもたちのおかげでいつも楽しく授業することができました。鶴田町の先生方は子どもたちのことをとても大事にしています。私は3年間、先生たちからたくさんのことを学び、おかげで少しずつ良い先生になることができましたと思います。

これからは、さらにもっと良い先生になるためアメリカの大学院に行き、社会科学の先生を目指します。鶴田町を離れるのは悲しいですが、これからの新たなステップに楽しみでいっぱいです。またいつか鶴田町に帰ってこれたらうれしいです。

鶴田町に住めてとてもうれしかったです。鶴田町で過ごした3年間は一生忘れません。へばな！



エマ・セインズバリー／Emma Sainsbury  
(アメリカ コネチカット州 ポーカタック市出身)

# See you again Friends!

外国語指導助手のエマ・セインズバリーさんと国際交流員のアンナ・クマシロさんが8月で任期を終えました。2人から町民の皆さまへお別れのメッセージが届きましたのでご紹介します。

私は幼少期を京都で過ごしたので、大人になってから再び日本へ戻り、日本で仕事をするのがずっと夢でした。今の仕事が決まってとてもうれしかったのですが、まさか青森に行くなんて思ってもみなかったです。青森はりんごの他に、雪と、外国語のような津軽弁のイメージしかなくて、最初は不安でいっぱいでした。

初めて青森空港に着いたとき、緑に囲まれた風景があまりにも自分が見慣れてきた「日本」と違い過ぎて、最初はどこにいるのかわかりませんでした。しかし、青森の美しい景色を見ながら故郷のバンクーバーを思い出し、すぐに好きになりました。役場の皆さんも大変親切で素敵な人ばかりで、恐れていた津軽弁も徐々に理解できるようになりました。おかげさまで、一年もたたないうちに、鶴田町の皆さんが「なまってきたね～」と笑顔で言ってくれたのがとても嬉しかったです。

英語活動はもちろん、さまざまな行事を通して鶴田町の子どもたちや町民の皆さんと交流できたのが一番の幸せでした。毎日小学校や幼稚園などで英会話をするのが楽しみでしかなかったです。町中で子どもたちと会った時も、「アンナ先生だ！」と笑顔であいさつをしてくれてとてもうれしかったです。子どもたちからもらった手紙や、一生懸命作ってくれたクラフトは一生の宝物です。

5年間もいると、鶴田町が自分の故郷のようにになりました。学校や役場で一緒に仕事した皆さんとここで出会えた皆さんは、私にとって家族のような存在です。本当に大好きです。鶴田町で仕事ができたと心から感謝しています。

鶴田町を離れるのはとても寂しいですが、私は遠くに行かないので、また会えることを楽しみにしています。5年間大変お世話になりました。Love you guys & see you soon!



アンナ・クマシロ／Anna Kumashiro  
(カナダ ブリティッシュコロンビア州  
バンクーバー出身)